滝の観音と茂木の立石

写真に見る115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□37□

市民に親しまれた景勝地

①明治38年ごろ撮影された滝の観音（竹下佳治撮影、長崎外国語大所蔵）

三菱造船所2代目所長の荘田平五郎が退任する際に市民有志が贈呈したアルバムに、写真師竹下佳行は、長崎近郊の自然風景として滝の観音と、茂木の立石の写真を収載している。

明治38（1905）年ごろ撮影されたとみられる2枚のうち、写真①は、古くから市民に親しまれた「滝の観音」（平間町1646）の名滝である。高さ約30㍍、「一条の滝」とも呼ばれる。

観音は、ここに創建された黄檗宗の長瀧山霊源院の本尊魚籃観音を指す。この禅堂は、黄檗宗福済寺の住職木庵の弟子鉄厳が、万治3（1660）年に建立した。観音像は寛文7（1667）年に唐商許登授が寄進している。領主の諫早茂照はこの地の幽深を愛で、元禄4年（1691）年、一帯の山林を寺に寄進した。

②明治38年ごろ撮影された茂木の立石（竹下佳治撮影、長崎外国語大所蔵）

弘法大師ゆかりの地で、唐留学を終えた弘法大師が延暦25（806）年にここに立ち寄り、滝水をご覧になり「大悲示現の霊地なり」と愛でて「行」を行い、水観音の梵字を懸崖に記したと伝えられている。

ここは昭和39（1964）年に長崎県における唯一の「名勝」に指定されている。滝の上部は昭和57年7月の長崎大水害で崩壊したが、昭和62年11月に復元された。

写真②は、茂木から宮摺へ向う海岸に、今も高くそびえる岩礁、立石である。文政年間（1818～30）に長崎聖堂の儒者であった饒田喩義が編さんし、地役人野口文竜渕義と画家打橋竹雲らの援助で稿本として残された「長崎名勝図絵」には、「注連ヶ崎の後にあたり、海辺をはなれて海中にあり、悄然としてそびえ起り、衝き立ち秀でる頂上に松あり、昔は五葉の巨松なりしが、中頃枯れて後又生れ出たるは常の松なり、隻巌ならび立つ、一つは大きくして数十丈、一つはやや低し、盆石を見るごとし」と、この名勝をたたえている。

文化元（1804）年に長崎を訪れた狂歌師大田南畝（蜀山人）もこの立石を見て、「またたくひ　あら磯浪のたて岩を　島このみする人にみせはや」と詠んでいる。

（長崎外国語大学長）

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/recnas/newspaper/）で見ることができます。

随時掲載します

長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

長崎新聞　2022（令和4）年2月28日

※長崎新聞社の許諾を得て掲載しています。画像および文章の無断使用・複製・再配布を禁じます。